

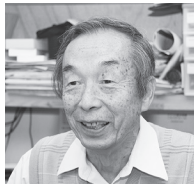
ねりま NPO ニュース

主な
内容

- 1面／練馬で伝えていくアニメーションの魅力
- 2面／パパの笑顔で家族も地域も幸せにする！
- 3面／次世代ためによりよい環境づくりを
- 4面／区内NPOの現況②⑩、NPO助成金情報

発行／練馬区NPO活動支援センター
 情報発信事業／担当
 NPO法人練馬区障害者福祉推進機構

練馬で伝えていくアニメーションの魅力 NPO法人 アニメーションミュージアムの会



事務局次長の村松錦三郎さん



事務局長の三崎 修さん

夏の夕暮れ、石神井公園の野外ステージに次々と集まってくる家族連れや子どもたち。今ではすっかり見かけなくなった野外上映会に、みんな期待を膨らませています。平成27年8月に開催された第6回目の上映会では、約600人が「オバケちゃん」や「はらぺこあおむし」などの映画を楽しみました。毎年この上映会を主催しているのは、高野台に拠点を置く「NPO法人 アニメーションミュージアムの会」です。

を与えて命を吹き込むアニメーションの魅力を、多くの人に伝えたい。本当に良い作品をどうやって広めていくかを考えて活動するのが私たちの使命」と語るのは、事務局長の三崎さん。



野外上映会でスクリーンに見入っている子どもたちは、今の時代だからこそ新鮮に映るそう

もともとは、練馬のアニメーション文化財の収集や保護を目的に、平成6年に会の前身が設立されました。この時は本格的なアニメーションミュージアムの建設を目指し、アニメーション事業にかかわる多くの人たちの声から、市民運動に発展しました。

「時間の経過とともに箱モノを作るという考えが変化し、平成15年に現在の名称に落ち着きました。今は、練馬の財産としてのアニメーションを区民や子どもたちに伝えること自体がミュージアムだという捉え方です」と話すのは、元東映動画

の村松さん。

現在、スタッフは十数名。上映会では学生ボランティアも募集しています。また、月に1回、内外の優れたアニメーションの鑑賞会を開催。イベントや教育委員会の委託講座

「遊遊スクール」でのアニメ教室、小中学校や児童館などへのアニメ出前講座も積極的に行っています。

「子どもたちには躍動感を表現する面白さを伝えています。アニメーションでは人形や砂、墨絵や油絵など、何でも動かせるので表現の可能性は無限大」という三崎さんですが、今後の課題は、定期的に上映会を行う場所の確保と、若い世代の参加だと言います。アニメーションの手法をお持ちの方はぜひご協力を！

好きなアニメは「となりのトトロ」（村松さん）、「わんぱく王子の大蛇退治」（三崎さん）とのことですよ



練馬こどもまつりの「手づくりアニメコーナー」は子どもたちに大人気！

「デジタル化の時代に、あえて16ミリフィルムの映画を映写機で投影することにこだわっています。動き

■ NPO法人 アニメーションミュージアムの会
 事務局長：三崎 修
 TEL：6915-9280
 メール：animamuseum@gmail.com

NPO に関するご相談を受け付けています

練馬区NPO活動支援センターを構成する団体

NPO 法人の立ち上げ、立ち上げ後の運営全般に関すること

- NPO法人練馬区障害者福祉推進機構 ☎ 6904-1033
 豊玉北 4-11-7 月～金曜日 9時～17時

ねりまNPO

検索

ホームページは
 こちらから

ボランティア活動への参加、ボランティアグループの運営全般、NPO 法人の立ち上げに関すること

- 社会福祉法人練馬区社会福祉協議会
- ① ボランティア・地域福祉推進センター ☎ 3994-0208
 練馬区役所東庁舎 3階 月～金曜日 9時～17時
- ② 光が丘ボランティア・地域福祉推進コーナー ☎ 5997-7721
 光が丘区民センター 6階 月～金曜日 9時～17時
- ③ 大泉ボランティア・地域福祉推進コーナー ☎ 3922-2422
 東大泉 2-8-7 パレスフォンテン 3 1階 火～土曜日 9時～17時
- ④ 関町ボランティア・地域福祉推進コーナー ☎ 3929-1467
 関町リサイクルセンター 1階 月・火・木～土曜日 9時～17時

パパの笑顔で家族も地域も幸せにする！

光が丘パパの会



代表の佐藤聖太郎さん(中央)と幹事の皆さん

「イクメン」という言葉のイメージと、現実の生活との板挟みで行き詰まっているパパたち…。その打開策として、パパが子どもと遊びに出かけ、ママに自由な時間を！という企画を打ち出したのが、代表を務める佐藤さんです。目指すのは、家庭でも職場でもない、「光が丘地域で子どもを持つパパ」という共通項だけでつながる、ゆるやかな地域コミュニティ。

「パパがストレスでイライラしていると、家庭が暗くなる。笑顔で楽しく過ごせば、子どももママも笑顔になり、それが地域に広がる



乳幼児期にパパがどれだけ子どもや家族にかかわれるかが大切だと言います

と思うんです」と、佐藤さん。

まずは、子どもが通う保育園の協力を得て園内でチラシを配布し、平成26年5月、葛西臨海公園への遠足を実現しました。ほぼ初対面のパパたちが子連れで大集合！

「約10組が参加したのですが、色々なパパたちが色々な子どもたちと色々な遊びをする。1人ではできないけれど、みんなで集まるからこそ楽になり、楽しいと実感しました。ママたちからも『よかった』と好評でした」

パパ同士のネットワークを築くのはハードルが高かったと言いますが、今では20数名が登録するLINEグループで、地域情報も交換するまでに。

佐藤さんの意識が子育てに向けたきっかけは、東日本大震災でした。「いつ死ぬかわからないのに、こんなに仕事ばかりでいいのか。一番大切なことは何だろう」と考えた答えが、“子育て”。平成25年に応募した「練馬区子ども・子育て会議」の委員活動が、会の立ち上げにつながったそうです。



氷川キャンプ場へ初めてのお泊まり遠足(平成27年8月)

当初は1人で会の運営をしていましたが、現在は幹事7名で団結力もバッチリ。「子どもとの時間が増え、自分自身も楽しめるようになった」「地元の付き合いは利害関係がないのがよい」など、幹事のパパたちにとっても手応えは十分のようです。定期的に集まり、年間計画を立てたり、イベントの企画を考えたりしています。

最終的な目標は、地域で助け合って子育てができる関係を築くこと。そのためには、周辺の保育園にも参加者を増やしていきたいと言います。

「それぞれの職業を活かして、お金や不動産のことなどアカデミックな情報も共有すれば、もっと広く興味を引けるかも」と、意欲的なパパたち。地域がもっともっと楽しくなりそうな予感です！

■光が丘パパの会

代表：佐藤 聖太郎

メール：hikarigaoka.papa@gmail.com

http://www.hikarigaokapapa.com/

カントウタンポポ自生地は野草の天国

第7回



浦部勝彦(うらべかつひこ)

ボランティア団体「光が丘カントウタンポポのなまか」代表。20年程前から趣味で各地の公園・庭園・植物園を巡るとともに、森林ボランティアとして富士山への植林・秩父の杉林の間伐・日光杉並木の下草刈り等を経験。平成11年に入会し、光が丘公園内のカントウタンポポ自生地で活動。平成20年から代表を務める。

◆春の七草と食べられる野草

「春の七草」は、芹(セリ)・薺(ナズナ)・御形(おぎょう＝ハハコグサ)・繁縷(はこべら＝ハコベ)・仏座(ほとけのざ＝コオニタビラコ)・菘(すずな＝カブ)・蘿蔔(すずしろ＝ダイ

コン)の7種類の野菜を指します。正月七日に七草粥を食べると邪気を払い万病を除くとの言い伝えがあり、新年早々のスーパー等でかごに盛られた七草を見かけます。

春の七草のうち、カントウタンポポ自生地に自生しているのは、ナズナ・ハハコグサ・ハコベ・コオニタビラコの4種類です。自生地には120種類程の野草が自生していますが、七草以外にも食用や薬用になるものは、ノビル・ヨモギ・ヤマノイモ・ドクダミ・クズ・スイバなど、20種類ぐらいあります。

食用になるという意味で、自生地で最も多い野草は、実はカントウタンポポです。我が国ではタンポポを食用にする習慣がありませんが、フランスでは家庭やレストランで生の葉をサラダにしますし、マーケットでは野菜として、園芸店ではタンポポの種子を野菜の種子として

次世代のためによりよい環境づくりを ねりまエコ・アドバイザー 葉っぱの会



代表の塚越泰郎さん（前列中央）とメンバーの皆さん

環境保全活動や各種イベントへの参加、子ども向けの講座など、いきいきと活動しているメンバーの合言葉は、「生涯現役」。きっかけは、練馬区主催の「ねりま環境カレッジ」でした。共に学び、修了後「ねりまエコ・アドバイザー」として認定を受けたのが約60名。そのうち生態系について学んだグループのメンバー12名で、「みんなで活動をしていこう」と、平成13年に会を立ち上げました。

「カレッジの終了日が8月8日だったので、“葉っぱの会”と名付

けました（笑）」と話すのは、代表の塚越さんです。主な活動場所は、武蔵関公園内の活動フィールド。練馬に自生する野草の保護を目的に、月に1度、草むしりや落ち葉掻き、野草の植え替えなどを行っています。また、関町リサイクルセンターで開催される環境月間イベントにも、パネル展示やワークショップなどで積極的に参加しています。

練馬区教育委員会の委託講座である「遊遊スクール」では、年4回、独自の企画で講座を開催しています。

「小学生が対象なので、子どもたちはもちろんのこと、親御さんにも関心をもってもらえる企画を、毎回知恵を絞って考えています」と、塚越さん。これまでに、牛乳パックを使ったりリサイクルの工作や



自然観察会「落ち葉で絵を描く」の様子。子どもたちが思いがけない才能を発揮することも！

どれも大好評とのこと。現在のメンバー8名がそれぞれの得意分野を生かし、環境やエコに関連した幅広い活動を展開できることが楽しみだと言います。

「子どもたちはみんな、好奇心旺盛。学校の授業や普段の生活では体験できないようなことを学んでほしいですね。『面白かったから、またやって!』という言葉や、『どうして雲は落ちてこないの?』と、考えもしなかったような質問が飛び出すと、手応えを感じて嬉しくなります」と、メンバーの皆さん。「自然に触れて子どもたちが喜ぶ姿に、自分自身がいちばん楽しんでいいのかもかもしれません」…それこそが活動の原動力なんですね。

今後は大人向けの講座も企画していきたいと意欲満々！新しい感性を取り入れるため、若い世代のメンバーも募集中心のことです。

■ねりまエコ・アドバイザー 葉っぱの会
代表：塚越泰郎
TEL：3925-4732



小学校の屋上で雲の種類や風向きを観察。色々な実験で子どもたちを喜ばせるのが楽しみ！

販売しています。アメリカではハーブとして利用されており、日本でも、タンポポの根を炒って粉末にしたタンポポコーヒーが販売されるなどハーブとしての利用が広がってきています。セイヨウタンポポは、明治時代に札幌農学校（現在の北大）でアメリカから野菜として導入されたものです。我が国には昔から在来種タンポポが各地に生育していましたが、江戸時代には救荒食として利用された記録があります。

今月の顕微鏡観察

●ツユクサの気孔

光合成と呼吸の際に、二酸化炭素や酸素が出入りしたり水分を蒸散させたりする器官が気孔です。その数は植物により異なりますが、アサガオは約80個/㎠です。



自生地の野草紹介



●ミズヒキ

秋に30cm程の総状花序に花をつけます。花弁のない小さな花で、がく片が4裂し、上3枚が赤色下1枚は白色です。花序を上から見ると赤く、下から見ると白く見えるため、紅白の水引に似ていることから名付けられました。



●メハジキ

草丈150cm程になる、根生葉のロゼット期間が長い2年草。夏から秋にかけて茎の上部の葉の脇に花を咲かせます。昔、子供がこの茎をまぶたに貼って目を開かせて遊んだところから「目弾き」と名付けられました。

練馬区内 NPO の現況②

～ 「面白さ」「ユニークさ」がありますか～

NPOは、どれだけ多くの味方や共感する支援者がいるかが成功のカギと言われていました。「共感する」「支援したい」といった感情を引き出すためには、団体の理念、事業、創業者や団体のスタッフの考え、言動、行動に、他の団体とは何か違う訴求力があるかどうか重要です。

では、他の団体と違うものとは何でしょうか？ 真剣さ・真摯さ・誠実さなどは、区内の多くの団体や代表者、スタッフみんなが持ち合わせています。では、それ以外に重要な違いは何でしょう。その1つとして考えられるのは、広い意味での「面白さ」「ユニークさ」ではないでしょうか。

多くの人気書籍の出版に携わった編集者が、「面白さ」とは最も良い評価と最も悪い評価の幅のことである、と述べています。例えば、インターネットショッピングサイトでは、特定の商品に対して、多数の顧客が評価をしています。書籍を例にとってみると、5点満点のうち3点の書籍は世

の中にあふれています。しかし、平均すると3点でも、その評価の中身を1つずつ見てみると、5点または1点しかない書籍がたまにあります。総合的には同じ3点ではありますが、その「幅」が面白さであるということです。逆に5点ばかりは怪しいし、1点ばかりは信用できない。3点ばかりも、いわゆる他と変わらない書籍であると述べていました。

NPOの事業においても、全員を味方にすることはできません。また、「まあまあ」という評価だけでは、実際に共に行動したり支援したりする多くの味方は得られません。そうであれば、熱烈なファンと猛烈な批判者が二分化するくらいの「面白さ」「ユニークさ」がある事業という視点も重要ではないでしょうか。

それができる舞台（助成金や補助金の出元の特徴など）と、できない舞台が存在しますが、他の団体とは「ここが違う」という団体特有の「面白さ」「ユニークさ」を打ち出していくことは、これからも長く事業を継続していくために必要な視点なのではないでしょうか。

NPO 助成金情報

助成内容や応募条件などは各助成金によって異なりますので、必ず事前に詳細を確認してください。募集要項・申請書類については、各ホームページからダウンロードしてください。

■住まいとコミュニティづくり活動助成

「住まいとコミュニティづくり活動助成」は、ハウジングアンドコミュニティ財団の自主事業として1993年から開始した助成プログラムです。

【対象事業】

1. 社会のニーズに対応した住まいづくり
社会の多様な課題に応えることのできる新しい住まい方・住まいづくりの提案、既存の住宅の再生や利活用、地域の人々や入居者が参加して行う住まいづくりなどを旨とする活動。
2. 住環境の保全・向上
歴史のある建物の保全・活用、花や緑を増やす、街並景観の向上、バリアフリーのまちづくり、高齢者や障害者などに対する居住支援など、住まいの環境をよくする活動。
3. 地域コミュニティの創造・活性化
子どもの遊び場やお年寄りがくつろげる場所の整備、地域のシンボルとなる施設や文化の活用、地域の連帯を強める創造的な活動など、地域のコミュニティの創造・活性化につながる活動。
4. 安全で安心して暮らせる地域の実現
地域における犯罪等の発生を少なくするための取り組みや、自然災害等の被害を軽減するための地域社会の形成に資する活動、自然災害からの復興を進めるための活動など安全安心な地域の実現を目指す活動。
5. その他
その他、豊かな居住環境の実現につながる活動。

【助成金額】100万円/件を上限とします。さらに、テーマ助成「既存の施設を活用して地域の活性化を図る活動」は1～2件（上限額

200万円/件）を助成します。

【申込方法】所定の申込書様式は当財団のホームページよりダウンロードすることができます。http://www.hc-zaidan.or.jp/

【応募締切】平成28年1月20日（水）必着

■ゆめ応援ファンド

下記（1）から（6）のいずれかの事業で、翌年度（4月1日から翌3月31日の間）に実施または購入するものを助成の対象とします。ただし、（5）についてのみ翌年度から3年間までの継続的な事業について助成の申請ができます。

- （1）学習会・研修会の開催
- （2）調査・研究の実施
- （3）器具・器材の開発・購入
- （4）活動にかかわる市民への啓発の実施
- （5）ボランティア・市民活動団体による先駆的・モデル的活動
- （6）その他

【助成金額】

- ・1件につき、50万円以内。
- ・ボランティア・市民活動団体による先駆的・モデル的活動の継続助成については1年につき、50万円を限度とします（3年の場合50万円×3年）。

【応募方法】所定の「ゆめ応援ファンド助成申請書」に必要事項をご記入の上、郵送または東京ボランティア・市民活動センターに直接持参で申請してください。下記より応募用紙をダウンロードし、必要資料と一緒に送ってください。

http://www.tvac.or.jp/page/tvac_yumefund

【応募締切】平成28年1月末日

★音声でお読みください

ご存知でしたか？ 練馬区NPO活動支援センター発行「ねりまNPOニュース」は音声で伝える「視覚障害者用」録音版を貸し出しています。ご希望の方は一步の会にお申し込みください。

NPO法人点訳・音声訳集団一步の会
練馬区高松2-16-12 ☎ 3577-5666

発行所 練馬区 NPO 活動支援センター

〒176-0012 東京都練馬区豊玉北4-11-7

電話：6904-1033 FAX：5946-4902

ホームページ <http://www.nerima-npo.com>

練馬区へのお問い合わせは、
練馬区地域振興課地域コミュニティ支援係 電話：5984-1039（直通）